

岩手県の 土地改良



CONTENTS

- 平成22年度農業農村整備事業推進懇談会 2
- 平成22年度災害復旧技術研修会を開催 3
- 円筒分水工放水式 3
- 照井堰安全通水祈願祭 4
- 永井小学校の児童が植樹体験 4
- 将来の担い手を大事に育成 5
- 大地に恵みを潤す先人たちの礎を学ぶ 5
- 「水土里情報システム」暫定運用へ 6
- ため池百選選定 8

2010 No.552

発行所／岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号

TEL(総機)019(631)3200 FAX(総機)019(631)3260

編集発行人／川邊 賢治 印刷所／永代印刷株式会社

<http://www.iwatochi.com>

ため池百選 有切ため池 (水土里ネットむろね)



平成 22 年度 農業農村整備事業 推進懇談会

▶ 重点3項目を要請

本会では、4月20日「ホテル東日本」において、小田島智弥 農林水産部長をはじめとする県幹部職員と本会役員との懇談会を開催し、本県の農業農村整備事業の推進方向や、農村集落が抱える問題の解決策について意見を交わした。

挨拶に立った舘澤会長は「本県の農業農村は、高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増大など、地域の活力が著しく低下している。農業の体質強化を図りながら、食料供給基盤である農地・農業用水等を良好な状態で確保・保全し、次世代に継承していかなければならない。本会としても、関係機関と連携し、積



極的に協力していく」と述べた。

続いて、小田島農林水産部長は「本県では昨年12月に“いわて県民計画”を、本年2月には部門別計画である“希望郷いわての農業農村整備計画”を策定した。消費者や生産者が、豊かさ恵みを実感できる「食と緑の創造県いわて」の実現を目指すこととしている。そのために

は、戸別所得補償制度等、農家の経営安定対策に加え、効率的、安定的な農業生産を支える基盤の整備を一体的に実施していくことが必要だと考えている」と述べた。

その後、舘澤会長が小田島農林水産部長に、要請書を手渡し、農業農村整備を着実に推進するための3つの重点事項を提示し、実現を訴えた。

意見交換では、「水路の補修・整備の必要性」「戸別所得補償制度のしわ寄せが農業農村整備予算に来ることの無いように国に働きかけて頂きたい」など、活発な意見交換が行われた。

本会では、今後も引き続き、要請活動を通して会員の声を行政に届けていくこととしている。



【要請書を手渡す舘澤会長】

要請の要旨

1. 農地や農業用水の整備・保全並びに農村の振興に向けた農業農村整備の着実な推進
2. 老朽化が進む基幹的農業水利施設の計画的更新と保全管理の実施に向けた制度の創設
3. 「農地・水・環境保全向上対策」及び「21世紀土地改良区創造運動」への支援強化

平成 22 年度 災害復旧技術研修会を開催

▶ 災害復旧について理解を深める

5月26日、本会会議室において、県・市町村・土地改良区等の関係職員約110名が出席のもと平成22年度災害復旧技術研修会（北東北ブロック）が開催された。

冒頭、挨拶に立った岩手県農



【挨拶を述べる須藤技監】

林水産部 須藤勝夫 農村整備担当技監は「本研修会は、災害復旧に関する専門的な知識の向上、実践レベルを身に付けて頂くという趣旨で開催されるものである。本研修会が皆様にとって実り多いものとなるよう祈念する」と述べた。

また、主催者である東北農政局整備部防災課 鎌田知也課長は「災害復旧工事で、早期復旧を目指す場合についても、新技術の導入やコスト削減の取り組みをお願いしたい」と述べた。

研修会では、同防災課職員の

講師により、災害復旧事業に関する制度、概要及び関係法令、査定や復旧工法に関する事項、事業計画の留意事項等についての説明が行われた。

その後、奥州市 農地林務課 菊池貴徳主任技師が、平成20年に発生した岩手・宮城内陸地震の事例を発表し、作業の実務と事業の流れについて説明した。

受講者たちは、査定方法、復旧工法等について理解を深めていた。



円筒分放水工式

▶ 本年度の五穀豊穡を祈願

水土里ネット胆沢平野（及川正和理事長）では4月22日、全国一の規模を誇る円筒分放水工の放水式を奥州市胆沢区の徳水園において行った。

雨が降りしきる中、国、県、市などの関係者が約70名が出席し、神事が厳かに執り行われ

た後、地元の神楽を奉納し五穀豊穡を祈願した。

直径24mの分放水工の中央より吹き出す水は、最大流量で毎秒16tにも及び、胆沢平野の二大幹線水路である茂井羅堰と寿安堰へ面積に応じて分配され、系統の水路を経て約



10,000haの胆沢扇状地の田畑を潤す。



照井堰安全通水祈願祭

▶五穀豊穰と農作業の安全を願う

水土里ネットてるい（阿部克郎理事長）では4月23日、一関市巖美町にある照井水神社において関係者約70名が出席し、五穀豊穰と農作業の安全を祈願した。



【挨拶を述べる阿部理事長】

挨拶に立った阿部理事長は「地球温暖化がもたらす最近の

異常気象に我々も微力ながら貢献するため、昨年度

この照井堰の中流に小水力発電所を設けた。この水路を開削した照井太郎高春をはじめ先人達は、人を思いやる心が非常に強く、我々の想像を超える人間愛でこの一帯に稲作を普及させた。この先人達の苦勞や功績を確実に次世代へ伝えていくとともに、今後も食料の安定供給と安全通水に役職員一丸となって努めていく」と述べた。



祈願祭の最後には、蓬田神楽保存会が、女面をつけて舞う「女（がた）舞」と面を外して舞う「くずし舞」の2つの演目で神楽を奉納した。



【くずし舞を奉納】

永井小学校の児童が植樹体験

▶水土里ネット鹿妻が植樹体験学習会を実施

水土里ネット鹿妻（館澤宏邦理事長）が主催する植樹体験学習会が5月21日、雫石町内にある改良区所有の水源涵養林で開催され、盛岡市立永井小学校の4年生の児童ら約80名が参加し、植樹体験を通じて水源涵養の大切さを学んだ。

学習会の冒頭、挨拶に立った館澤理事長は、「この山林は雨

水や雪解け水を蓄え、その水は川に流れでて水田を潤します。大切な山林を造るお手伝いをよろしくお願ひします。」と述べた。

児童は慣れない手つきながらも鍬で穴を掘り、アオダモ約320本を植樹した。

児童は植樹した

アオダモに、自作したネームプレートを掛け、木々の成長が楽しみだと話していた。



【植樹を終えみんなで記念撮影】

将来の担い手を育成

▶ 水土里ネット東山が農作業体験学習会を開催

水土里ネット東山（小野輝彦理事長）は、21 創造運動の一環として5月25日と6月3日の両日、一関市東山町の松川小学校（佐藤典子校長）の児童約120名の参加による農作業体験学習会を開催した。児童らは、水土里ネット東山組合員の所有する学校近くの水田や学校敷地内の畑を利用し、水土里ネット東山の役職員、組合員、老人クラブ等の協力を得てモチ米とサツマイモの苗を植えた。

佐藤校長は「お米やお芋を作って生活を支えてきたこの地域の人達の思いを感じ、一生懸命に苗を植え、秋の収穫を楽し

みにしてほしい」とあいさつを述べた。

子供たちは、農家の方々から植え方について説明を受けた後、半袖、半ズボン姿に素足で田んぼに入り、泥まみれになりながら、「おお〜」「楽しい」などと元気に声を上げ、苗を丁寧に植えていた。

同水土里ネットの組合員は、「この地区では、作付けをしない水田が多くなり、荒れた農地が増えてきている。どうしてこういうことになったのか家に帰ってお父さん、お母さんと話し合って欲しい」、「みなさんの将来のためにも、今後の農業に



ついて関心を持ってもらいたい」と話していた。

同水土里ネットは、平成19年度に21 創造運動さなえ賞を受賞しており、この他にも出前授業や土地改良施設見学会等の様々な運動を実施している。



【早く大きくな〜れ】

田んぼの水は、どこから来るか

▶ 猿ヶ石用水地区管理体制整備推進協議会が施設見学会を開催

猿ヶ石用水地区管理体制整備推進協議会「事務局：水土里ネット江刺猿ヶ石（高橋三一理事長）」では、国営造成施設管理体制整備促進事業の一環として7月9日、奥州市江刺区の稲瀬小学校4年生約20名の参加による施設見学会を開催した。



【挨拶を述べる高橋理事長】

開会にあたり、高橋理事長は「江刺の田んぼは、北上川から水を引っ張ってきて米を作っている。その他に花巻市東和町の田瀬ダムの水も江刺まできている。そのおかげで飛躍的に米の生産が伸び全国でも有数の米どころとなった。今日は、田瀬ダムをはじめとする土地改良施設を見ていただき、米どころの源となっている田んぼの水がどこから引かれてくるのかを見て、学んでいただきたい」と挨拶を述べた。

児童らはバスに乗り込み、田瀬ダム、稲瀬調整池、立花頭首工、江刺西部揚水機場などを見学した。中でも、「田瀬ダムも



のしり館”で関係職員からダムの役割である「治水・かんがい・発電」について説明を聞くと、目を丸くして驚いていた。

小学校へ戻ると「すごい勉強になったので、また来年も参加したい」という声がたくさん出され、水土里ネット江刺猿ヶ石の職員を喜ばせていた。



【立花頭首工
見学する児童ら】

「水土里情報システム」暫定運用へ

▶平成 23 年度からの本格実施に向けスタート

本会では、5月21日から6月4日まで、県内8会場で水土里情報システム説明会を開催し、国の出先機関をはじめ、県、市町村、及び農業関係団体の担当者約180名が参加した。

説明会では、本会職員がシステムの概要、本格運用までのスケジュール、システムの利用負担金について説明したほか、農地の面的集積や農業用排水施設の管理等の有効活用事例を紹

介した。

当システムは、パソコンとインターネットに接続できる環境が整備されていれば、利用することが可能である。

なお、このシステムには、農地に関する基本的な情報（農地筆図、地目、地番等）が登録されており、今後は農業水利施設等の情報を登録する予定となっている。

また、各機関が所有する様々

な情報を付加することにより、耕作放棄地対策や戸別所得補償制度などへの利活用が期待される場所である。当システムの利用は、H22年度は無償で試行運用し、H23年4月からの有償による本格運用を目指している。

詳しいお問い合わせは、水土里ネットいわて（水土里情報センター室 / TEL 019-631-3207）まで。

1. 水土里情報システムとは？

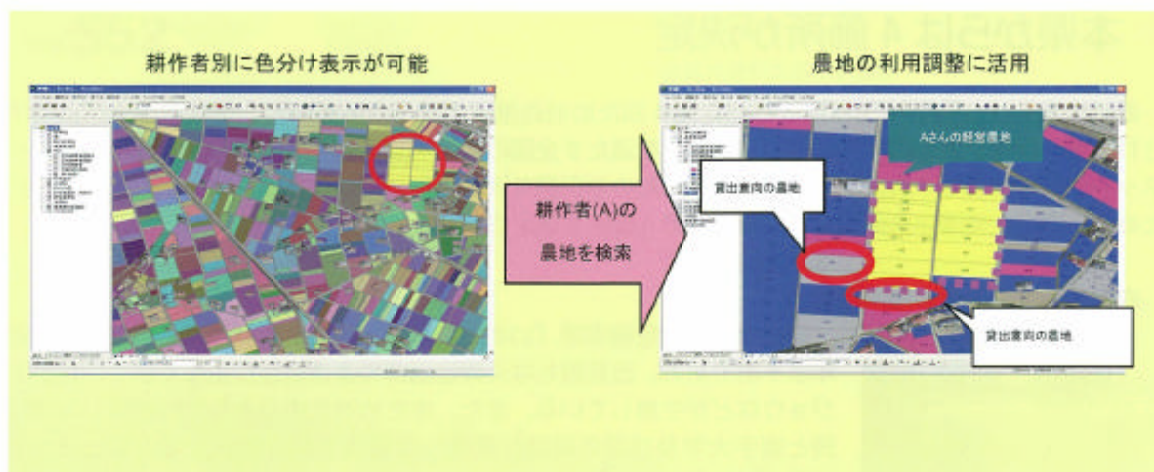
水土里情報システムは、デジタルオルソ画像（航空写真）、地形図、農地筆図、耕区図等の地図情報に、字、地番、地積、地目等の農地情報を付加したGIS（地理情報システム）である。パソコン上でデータの表示、加工、編集等を行うことができ、各種計画の立案、調査・結果の分析、シミュレーション等、農業分野の様々な業務に活用することができる。



2. 活用例の紹介

(1) 農地の面的集積に活用

耕作者情報と営農意向情報を登録することにより、農地の利用集積に関する資料を容易に作成でき、地元調整時の説明資料として非常に有効。



(2) 農業用施設管理に活用

農業水利施設の位置や構造、造成年度や補修内容等の維持更新履歴を登録することにより、視覚的に把握することができ、埋設されたパイプラインや制水弁等、施設状況の確認や、施設の被災時の迅速な対応などに非常に有効。



(3) その他、様々な業務に活用

各機関が所有する情報をこの地図情報に付加することにより、耕作放棄地対策、戸別所得補償制度への対応等、様々な業務における着色図面の作成、情報の検索、集計、分析等に非常に有効。

